

# Sj

人とクルマのいい関係をめざして

1

2006 JANUARY

- 編集室：〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1  
本田技研工業株式会社  
安全運転普及本部内  
電話 048(452)0304
- 編集人：河野光彦
- 年間購読料：1200円(定価1部100円・消費税込)  
※郵便振替 口座番号：00170-7-173273  
※加入者名：株式会社クリエイティブ  
安全運転普及本部係

今月の  
スポット

環境・安全の領域で、これ  
からも社会に役立つこと  
をやっていく。その先鞭をつ  
けることがHondaの夢で、  
「The Power of Dreams」  
にこめられている志です。  
(対談より)

CONTENTS

- 新春対談：The Power of Dreams ..... ①  
新たな世界に挑む原動力
- TRAFFIC ADVICE ..... ④  
●(株)NTT東日本一千葉/飲酒運転の危険性をシミュレーターで  
体験してもらう
- SAFETY REPO ..... ④  
●本田技研工業(株)関西法人営業所/クルマの物理的限界と  
危険予測の大切さを体感する
- NEWS REVIEW ..... ④  
●本田技研工業(株)法人営業部「2005年 感謝の集い」  
●2005年ホンダ安全運転普及本部「年末ご挨拶会」  
●活動短信/交通安全センター12月
- OPINION ..... ⑤  
矢橋昇/事故防止の前に迷惑防止のために、交通ルール・  
マナーを守る
- HOW TO LEAD ..... ⑤  
交通安全センターレインボー浜名湖/Hondaモーターサイクリ  
スト・スクール
- DOCUMENT EYE® ..... ⑥  
●後部座席同乗者のシートベルト着用状況を観察する

## ◎新春対談：The Power of Dreams

# 新たな世界に挑む原動力

いま、子どもや若者が、夢を持っていない時代になっていると言われる。そのなかで、Hondaはグローバルブランドスローガンである「The Power of Dreams」を掲げ、さまざまな領域で夢の実現をめざしている。日本人プロゴルファーとして初めてアメリカ・メジャー大会を制覇し、また、日本女子プロゴルフ協会会長として、さまざまな改革を実践している樋口久子さん、世界へチャレンジするHondaの福井威夫社長との対談から、夢の実現に向けてチャレンジする力「The Power of Dreams」について語っていただいた。



**福井威夫**  
本田技研工業株式会社社長

**樋口久子**  
社団法人日本女子プロゴルフ協会会長



Hondaはマン島TTレース(写真左)で優勝を果たし、その後、さまざまな世界で躍進を続ける



# 樋口久子 Hisako Higuchi

1945年、埼玉県川越市生まれ。女子プロゴルフ1期生。通算72勝(国内69勝、海外3勝)。デビューから87年まで20年連続勝利を記録。68年から9年連続を含め、賞金女王11回、ホールインワン10回。文部科学省スポーツ功労者顕彰なども受賞。97年に日本女子プロゴルフ協会会長に就任。2003年にはアジア人として初めて世界ゴルフ殿堂入りを果たす。

## 夢は勝ちたいという欲に向かつて努力を続ける力

樋口さんは、アメリカツアー挑戦8年目で日本のプロゴルフの誰も成し得なかった日本人初のメジャー大会制覇を達成しました。アメリカに行くたびに欲が出てきたと言われましたが、夢というのは、その欲を実現しようという力といえますか。

樋口 やはり、アメリカで勝つてみたいという欲がないと実現しませんね。日本では勝つのが当たり前でしたが、アメリカでは勝てないのが当たり前です。そこで「勝ちたい」となる。その目標に向かって、誰にも負けないぐらいの練習を積んで進んで行きました。

福井 その欲に向かつて常に努力していく、続けていく力が夢ですか。

樋口 そうです。日本の試合がない4、5、6月の毎年3ヵ月間だけアメリカのツアーに行きました。3ヵ月で10試合を10年続けましたが、毎回行くたびに、1打1打のストロークの重みを感じ、スイングはこれでもいいかと自問自答する。中村先生に教えていただいたスイングを納得いくまで、ボールを誰よりもたくさん打って体に覚えさせ、「これでいいんだ、これでいいんだ」と言いながら試合をしていました。優勝した時は、「よく8年もアメリカに通い続けた。これで、ゴルフをやめてもいい」と思いました。

福井 それは、ホンダに置き換えるとマン島TTレースみたいなものですね。私たちが国内でレースをしていたわけですが、マン島に行ったらまるでレベルが違う。エンジンの馬力が外国勢は2倍、3倍でしたから。そんなことは関係なく、また会社も小さいのに本田宗一郎が「勝つぞ!」と言ってから5年くらい、夜を徹して猛烈な努力をしました。全くレベルが違うところから、一気に追いつかなくては行けないということで、新

まず、お二人は若い頃、どんな夢を持っていたのですか。

樋口 私は中学時代まで陸上競技の80mハドルと走り高跳びをやっていました。県大会で2位に入ったりしたので、陸上競技の強い高校に進学しました。姉がゴルフ場に勤めていたので、土日になると姉について遊びに行っていた時にゴルフを覚えたのです。そうしたらゴルフのほうが面白くなり、陸上をやめてしまったわけです。高校卒業後の進路を決める際に姉が、「プロゴルファーになってみたら」とすすめてくれました。運動も好きでしたし、「じゃあ、やってみようか」という、本当に軽い気持ちでした。当時、女子プロの協会もないし、もちろん女子の試合もありませんから、「女性がプロゴルファーになってどうするんだ」と言われました。私が通っていたゴルフ場に中村寅吉先生がいらして、日本プロゴルフ協会の理事をしていましたから、先生のご尽力で女子部を設けようということ、男子の協会のなかにまず女子部を設けることにしていただいて、初めてプロテストが行われたのです。

福井 アマチュアの選手権で日本一になったから、プロをめざされたのかと思っていたのですが、最初から目標はプロになることだったのですか。

つたのですか。

樋口 はい。プロゴルファーになるからには日本一になろうと決めました。それから毎日の生活すべてがゴルフ中心。自分が好きで選んだ道ですから、練習も苦しいと思つたことはありません。中村先生が東京へ帰る時に途中までクルマに乗せてくれるのですが、「もういい加減にしろ。俺は帰るぞ」と言われるまで練習していました。

福井 樋口さんがプロゴルファーとしてスタートされたのが1968年だそうですが、私がホンダに入社したのは1969年です。ホンダは自動車メーカーではありませんが、まだ小さな会社でした。二輪のレースで世界一になった本田宗一郎はF1レースに挑戦していて、日の丸を背負って闘っていました。私は、F1レースで日本を代表して世界と闘っていく自動車メーカー、小さな会社、ものすごく技術を大切にしている会社というところで、とにかくホンダに入りたい、F1のプロジェクトの一員になれたらいいなというのが夢でした。あまり先のことが、大それたことは考えていませんでした。樋口さんは、その時プロとして日本一になるという夢をお持ちになっていた。その当時は、アメリカに女子プロはあったのですか。

# いつも挑戦する時、迷った時には原点に立ち返る 原点は「お客様の喜び」と「人間尊重」です

しい技術に挑戦していく。欧米のメーカーが使わなかったDOHCの4バルブという非常に馬力が出るが、ものすごく複雑なメカニズムのエンジンを採用したわけですが、これを開発したことでホンダはマン島TTレースで優勝し、世界で躍進できました。

樋口 「The Power of Dreams」というグローバルブランドスローガンを掲げたのはいつからですか。

福井 2000年です。ホンダは創立50周年を迎えて、次の21世紀を構想した2010年ビジョンをつくりました。その時にいろいろなコピーを考えましたが、ホンダが二輪メーカーになった夢の証しとして最初に出した二輪車が「ドリーム」でした。当時の本田宗一郎は戦後、裸一貫で二輪メーカーを始めました。世界一の自動車メーカーになるという、どえらい夢を見ていたと思います。その象徴的な商品が「ドリーム」だったわけですね。「ドリーム」はホンダの言葉、夢、本田宗一郎そのものから、これを絶対に手放すわけにいかないという思いがあつて、「The Power of Dreams」としたので、ですから、この「Dreams」はいわゆる漢字の「夢」とはやや違ひまして、最近では、「志(こころざし)」と言っています。社会に役立つ、付加価値の高い商品を作っていくという高い目標をもって全員で努力していくことです。ホンダにしかできないようなこと、常に新しいことに向かつていく。

これは具体的には「喜びの創造」です。たとえば商品をお客様に買っていたら、不満が出る場合があります。その不満をなくしていく、満足度を高める努力を一所懸命にしていると、満足を超えたところにお客様の喜びがある、期待以上のものが商品にこめられているというよな、商品を通してさらなる喜びを創造することが1つです。もう1つは、技術でいうと、クルマは地球環境とか交通事故とか社会的課題を抱えているわけですから、この課題に「人間尊重」を基本に挑

# ◎新春対談：The Power of Dreams「新たな世界に挑む原動力」

戦していく。安全の領域では、ぶつからな  
いクルマの開発です。これは相当大きな決  
断でしたが、ぶつからないクルマをめざす  
方向に一歩踏み出し、ホンダASV-3を  
完成させたわけですね。追突軽減ブレーキな  
どはホンダが世界で初めて開発したもの  
です。環境対応では、やはり究極の目標は化  
石燃料から離れた太陽エネルギーや燃料電  
池のような新しい技術で、これはホンダが  
最初にやらなくては行けないと決まってい  
ます。環境・安全の領域で、これからは社  
会に役立つことをやっていく。その先鞭を  
つけることがホンダの夢。『The Power  
of Dreams』に込められている志です。

**樋口** 私は選手として日本一になり、アメ  
リカのメジャー大会で優勝するという夢を  
実現しました。それは中村先生を始めとし  
る日本のゴルフ界の方々に支えられた結  
果、本当にいい思いをさせてもらったの  
です。アメリカでの優勝は日本のゴルフ界と  
いう組織の夢でもあったのかもしれない  
ん。その恩返し気持で、9年前に日本  
女子プロゴルフ協会の会長になりました  
が、ちょうどバブル崩壊後のどん底の時  
でした。テレビの視聴率も低迷し、観戦す  
るギャンラーも少なく、スポンサーを維持  
していただくでも大変でした。でも、アメ  
リカのツアーを見ると、ゴルフ場のまわり  
の街の一大イベントみたいな感じで、ど  
こからこれだけの人が来るのだろうと思  
うほど、ギャンラーがたくさん集まる。ゴ  
ルフが生活のなかに入っている感じがし  
ました。ゴルフをプレーする方しかゴル  
フ場にこないし、試合を見ない。私は、こ  
れからのゴルフは一部の方ではなく、多  
くの身近なスポーツにしていきたいと思  
いました。それにはゴルフを増やし、フ  
ァンを増やさないといけないということ  
で、今も続けているキッズゴルフを、ジ  
ュニア育成のための底辺拡大として始  
めたわけですね。これまでに、二千数百  
人の子どもの手を教えました。子どもが  
お母さん、お父さん、ご家族の方がいら  
っしゃる。また、最近では若い選手が活  
躍していますので、より身近になって  
お孫さん、お孫さん連れて観戦に来て  
いただきます。ファン層も非常に変わ  
りました。テレビの視聴率も、当時は3%、4%だっ

たのが、現在は13%とか14%。人気が上  
ってきたのはうれしいのですが、これを維  
持していくのが大変だと思います。

## 迷惑をかけるマナーが 楽しさに通じる

「これから高齢者が増えていきますが、ど  
のように夢を持つたらいいのでしょうか。」

**樋口** 目標を持つことだと思います。高齢  
というほどではないのですが、女子プロに  
今までなかったシニアトーナメントがいく  
つかできています。昨年は5試合を開催し  
ました。シニアといっても女子は45歳から  
です。女性にとってシニアというのはあま  
りピンとこないというか、言われたくない  
言葉です。ですから、私たちはシニア  
を「エバーグリーン」と呼び、「エバーグリー  
ン・トーナメント」とし、45歳以上の女子  
選手の目標となる大会を設けました。高齢  
者の方も、ご自分の目標を何か一つ持たれ  
るといいと思います。

**福井** エバーグリーンとは、いい言葉です  
ね。私自身はシニアになったから気にする  
ということはありません。年齢は考えないほ  
うがいいと思います。私ぐらいの年齢にな  
ると、同じ年でも人によって大きなギャ

があり。体のコンディションを維持する  
ために努力している人と、怠惰な生活を送  
った人の差は、若い時はあまりないが、年を  
重ねると、エージシフトしたいというはる  
な夢をもっています。ですからトレーニング  
をして、あまり怠惰な生活をしない。そう  
いう夢に近い目標があるといいですね。今  
は隠居で終わりという時代ではないですか  
ら。

**樋口** レッスンをしていると、「もう少し  
ボールを飛ばしたいけど、どうしたらいい  
ですか?」と、よく聞かれます。「日頃、  
何か運動をしていますか?」と聞くと、月  
に1、2回、ゴルフをする程度でほかには  
運動をしていないという人が多い。「それ  
ではだめですよ」と言います。「飛距離を出  
たいのでしたら、やはり毎日素振りをして  
100回するとか、1時間は歩く、エレベ  
ーターでなく階段を使うといった毎日の積  
み重ねでいいですから、少しずつ努力を  
されるといいですよ」と申し上げていま  
す。

**福井** 素振りは効果がありますか?

**樋口** 背筋などがやはり違います。軽く  
はななく、本当にボールを打つ感じでビ  
ューン振らなくてはだめです。それを続  
ければ、よくなるというよりはキープは  
できます。年をとってもゴルフを続けたい

というのであれば、目標を持って努力す  
ること、もう一つは、プレーを楽しむ  
ことと続かないですね。これは人に迷惑を  
かけないようにすることです。みなさん、  
高齢の方はプレーが遅いだろうと思われ  
ますが、クラブを2、3本持っていて、テ  
ンポよくポンポンと回ってしまおうか  
なりいらつしやいます。自分の力を知  
っているから、要領がよくプレーが速  
いのです。若い方は、ボールが速いほう  
を探して時間がかかっています。

**福井** それはクルマやバイクの運転とよ  
似ているところがあります。運転もエ  
バーグリーンの精神で、私たちは高  
齢の方がいつまでも楽しく運転して  
いたいただきたいと思  
っています。そのためにも必要で  
しょうし、クルマで出かけることが  
楽しいという気持ちが大切です。そ  
して、同じ道路を利用している人  
を思いやるとか、迷惑をかけない  
といったことが、安全な運転に通  
じますし、楽しい運転になると思  
います。それがより豊かなモビリティ  
社会の実現につながるのです。運  
転もゴルフも、マナーを知らない  
人が随分いますね。グリーン上で  
パットを打つ時、ほかのプレーヤー  
にはラインの延長線上に立ってほ  
しくないですね。確かにライン上  
で見たくないので、絶対



## 福井 威夫 ●Takeo Fukui

1969年早稲田大学工学部応用化学科卒業後、本田技研工業に入社。  
87年ホンダレーシング社長兼本田技術研究所常務。  
90年同研究所専務。96年本田技研工業常務。98年本田技術研究所社長。本田技研工業専務。  
2003年本田技研工業社長、現在に至る。

### 読者プレゼント

樋口久子さんのサイン入りSJキャップを抽選で読者の方8名様(白2個、青6個)にプレゼントいたします。ご希望の方は、ハガキまたはeメールに住所、氏名、電話番号、希望のキャップの色、SJへの感想を記入の上、下記にご応募ください。  
応募締切：2006年2月10日(消印有効)  
(宛先) 〒107-0062 港区南青山3-4-7 第7SYビル6階 株式会社アストクリエイティブ「SJ読者プレゼント」係 (eメール) sj-mail@ast-creative.co.jp  
なお、当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。  
\*ご記入いただいた個人情報は、上記プレゼント発送業務および弊社紙面の充実を目的とした調査協力等のご連絡以外には使用せず、第三者には開示いたしません。あらかじめご了承ください。

にやっつけないけません。  
**樋口** ゴルフは一人でプレーしている  
のではない、いろいろな方々が同じグ  
リーンでプレーをしているということ  
です。みんなが楽しく回るためには  
人に迷惑をかけること、ルール、  
マナー、エチケットを守ることが  
ゴルフの原点だと思います。  
**福井** 樋口さんはアメリカツアーで  
ご自分のスイングについて自問自答  
され、人一倍練習されて「これで  
いいんだ」と納得されたと言われ  
ましたが、これでいいという一つ  
の信念に立ち返って、夢に向かって  
チャレンジされました。私も迷  
うことがありますが、ホンダとい  
う会社には、いつも挑戦する時  
迷った時には原点に立ち返ること  
がフィロソフィとしてあります。原  
点はお客様です。「お客様の喜び」と  
「人間尊重」に戻るので、迷った  
場合には原点に照らして考える  
ことしかありません。夢の実現も  
そこから原動力が生まれてくるのだ  
と思います。お客様に戻って考え  
れば、絶対に間違わないと思  
います。  
— 本日はどうもありがとうございました。

※1 マン島TTレース1997年から開催され  
ているイギリスのマン島の公道を使用したレース。  
TTはツリスト・トロフィーの略。1周約60km  
の公道コースを周回し、タイムを競う。ホンダは  
1959年に初出場し、1996年には125cc  
と250ccの両クラスで1、5位を独占した

※2 ASV (Advanced Safety Vehicle) 国土交通  
省が推進し、自動車/二輪車/全メーカーが自主  
的に取り組む先進安全自動車開発プロジェクト。  
ホンダは四輪と二輪を手掛けるメーカーとして、  
車間通信(車両間の通信)を主体とした独自の  
技術を盛り込んだASV-3を完成させた

※3 エージシフト18ホールを自分の年齢以下  
のスコアでラウンドすること